



# 小網代通信

2017年7月号 VOL-229

発行：小網代ヨットクラブ

編集：広報委員会

編集長：里吉美恵子

〒238-0225

神奈川県三浦市三崎町小網代1385-18

Tel&Fax 046-804-5550

## 今月の内容

・連絡事項	編集委員	1ページ
・「本州一周クルージング」	望月 常次(スピリット オブ トウキョウ)	2~3ページ
・「今、小網代の森で(半夏生)」	大谷 正彦 (KELONIA)	4ページ
・「「舵」誌 記事紹介」	編集子	4ページ

## 連絡事項(編集委員)

### 1. < 6月18日(日)ハーバー清掃作業 39艇参加 >

クラブハウス前に8時30分に集合されたメンバーの皆様、お疲れ様でした。今回は各艇の皆様にご協力いただき、日頃のゴミの出し方について高橋クラブハウス委員長よりクラブゴミ(小網代ヨットクラブで出せるゴミ)の取り扱えるものと出し方について説明がありました。出入りの多くなります時期、遵守いただきますようお願いいたします。特にBBQを行う方は、ゴミの持ち帰りをお願いいたします。

### 2. < 小網代フリートレース レーティング改訂案内 >

KFRのレーティングルールが《小網代レーティングルール2017》に改訂され、7月のKFRから適用されることになりました。詳細はホームページの「レース」→「KFR」→「公示・指示書等」に下記の文書が記載されていますので、是非ご覧ください。

- ・《小網代レーティングルール2017》
- ・《小網代レーティング2017の解説》
- ・《改正点の解説》
- ・《新旧レーティング比較》

「舵」2017年8月号より転写

### 3. < 7月KFRは、相模湾オープンヨットレースと共催 >

参加申し込みは7月9日(日)までとなり、本号発行時にはもうすでに締め切られております。現在KFR参加艇は13艇となっています。参加艇数の多いレースです、参加される艇の安全とご健闘を祈ります。

### 4. < またまた「舵」誌8月号に小網代ヨットクラブの“飛車角”が登場 >

小網代ヨットクラブ、こんなに良いの?!なんと「舵」誌の食企画で“飛車角”メンバーが全国デビュー。4ページにわたってマグロのテーマで三崎に出現。



【小網代ヨットクラブウェブサイト情報】 URL <http://koaziroyc.jp>

【次回予定 総務委員会 7月18日(火)18:30~21:00 駐健保会館4階会議室(JR田町駅より徒歩10分)】

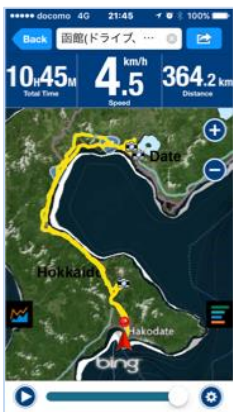
## 本州一周クルージング

スピリット オブ トウキョウ 望月 常次



長年の夢だった本州一周クルージングにスピリット オブ トウキョウのメンバーの5人で4月7日(金)から6月7日(水)の計画で出港することになった。しかし、今年4月の天候は意地悪で出港できたのは9日(日)だった。初めから2日遅れのクルージングとなり、計画に追いついたのは、日本海に入ってからだった。小網代から瀬戸内海は、ほぼ毎年クルージングで通っていたので、目新しかったのは日本海に入ってからだ。日本海では潮位差がほぼ無く、浮き桟橋に舫うように艇繫留できたのはおどろきだった。隠岐諸島や佐渡に渡り観光を楽しんだが、途中から陸上部隊の参加

があり、機動性に富んだクルージングを楽しむことができた。具体的には、秋田県の男鹿半島の戸賀湾から函館を経由して青森県の下風呂までの7日間を、たかとの池内さんと、ガルの栗津さんが陸上部隊としてキャンピングカーで参加をしてくださった。また、青森県の白糠から福島県の小名浜までの10日間を飛車角の宮井さんが陸上部隊として参加してくださった。陸上での行動範囲が広がり楽しい旅となった。ここで、その内容の一部を報告させて頂く。



まずは、北海道の函館での観光についてである。行き先は、小沼大沼を経由して洞爺湖になった。池内さんのキャンピングカーに乗り、出発した。小沼に近づくと函館本線の軌道と平行して自動車道路が通っていた。函館本線の電化はまだのようだ。大沼では車をおり、キャンピング場から駒ヶ岳を望める場所で休憩をとった。キャンピング場としては水の便、トイレの便、火の便などよくできたキャンピング場だと思う。次の目的地は洞爺湖だ。大沼公園のICから高速道路を使い、一路虻田洞爺のICまで行く。片側一車線の高速道路だ。途中の景色は、単調だが、さすが北海道と言える物だった。広い大地、針葉樹の森の濃い緑、広葉樹の若草色、牧草地の緑のカーペットと同じ緑だがそのコントラストが美しい。これで晴天だったらさぞ美しいと思うが、残念ながら曇天。約1時間半の高速道路ドライブのあいだに霧

が出てきて視界が悪くなってきた。10時頃には、5kmから10kmの視界しか確保できなくなっている。高速道路の場所が内海湾に面しているため、やませが進入してきたのでは無いかと危惧をした。明後日からのクルージングに備えるためにレーダーリフレクターを追加で設置する必要があるかなどを考えてしま



う。次はサミットで有名になった、ウインザーホテルに向かった。ホテルからの景色を楽しんだあとホテルのロビーでお茶とケーキを注文して久々にゆったりした時間を楽しんだ。ロビーでは、美女のフ



ルートとピアノの演奏があり美しい音色を楽しみ、本当に優雅な時間を過ごすことができた。その後にサミットのメンバーが記念撮影をしたお立ち台に行き、我々のサミットを楽しんだ。もちろん記念撮影もした。ただし、佐々木さんは船に残ったので記念撮影に写っていない。サミットに招待されなかったロシアの誰かさんみたいだ。

函館への帰路は、一般道に行くことにした。かかる時間があまり変わらないのと景色を楽しむためだ。船に戻ってからは出発前に準備をしておいた、たこ焼きを楽しんでこの日の夕食は終わった。

次は、飛車角の宮井さんが陸上部隊として参加した、八戸での青森観光。宮井さんの車で、まずは酸ヶ湯温泉を目指して出発した。酸ヶ湯温泉に行くためには、奥入瀬川の下流をさかのぼり途中から八甲田



山の山麓を登っていくことになる。奥入瀬川と合流する鳶川の脇を登っていった。途中できれいな川沿いを散歩した。マイナスイオンが満ちた、新緑の森をあるくのは気持ちが良い。記念撮影をしながらのわずかな散歩を楽しんだ。酸ヶ湯温泉は、男女混浴の温泉だ。温泉

に着いて湯に入ろうとしたら、9時から男性の時間とのことでこの時間は混浴では無いと思った。しかし、湯船にはいると2人の女性が入っていた。一人で入っている方と、夫婦で入っている方の2人だ。どこを見て良いか困ってしまう。女性の方があっけらかんとしているようだ。酸ヶ湯温泉は、洗い場が無くただ暖まるだけの温泉だ。十分に暖まり湯をでた。次は計画には無かった八甲田山雪中行軍の碑の見学だ。酸ヶ湯からすこしはなれた所にある。ここでは記念碑を見て大変な事件だった事がわかった。199名の死者が出て、助かった人はわずか11名だけだ。山も海も気象をきちんと調べて的確な判断をしないと危ないと肝に命じた。

次は、青森の魚菜センターののっけ丼を食べにいくことだ。のっけ丼のシステムは、入り口でご飯とチケット(のっける具材のため)を購入して、チケットで各店が用意している小皿と交換してご飯の上ののっけるシステムだ。チケットは10枚あって1,300円、ご飯で1枚、その他の魚を小皿で購入していく。自分で選択して好きな物をのっけることができるので満足感が高いと思う。



満腹になり、次はねぶたセンターの訪問だ。お囃子の実演があり、激しい太鼓の音とお囃子が始まった。皆集まれのお囃子、通常のお囃子、戻るときのお囃子、7日目の特別なお囃子が演奏された。跳ね人の説明と参加者を募った跳ね人の体験などがあつた。本物のねぶたの迫力はものすごく、大きなねぶたが3台飾ってあり、満足できる内容だった。

八戸への帰りは、みちのく自動車道路をつかって国道4号線までもどり八戸を目指した。その途中、七戸の道の駅があつたので寄ってニンニクとその他の地産品を購入

入した。最後は、スーパーマーケットで食料を購入し船に戻った。

今回の日本一周のクルージングは、ヨットのクルーザーとキャンピングカー(陸のクルーザー)や自動車を使い継ぎ好きなところに行くことができたので観光の旅としても満足のいくものだった。機動的な手段を提供しながら随伴してくださった、池内さん、栗津さん、宮井さんに感謝。

——— 今、小網代の森で ———

“半夏生”（ハンゲショウ）が群生しています。“がまの穂”も見られます。



KELONIA 大谷 正彦 7月2日撮影



「舵」2017年8月号より転写

「舵」誌8月号、三崎のマグロ料理紹介の企画です。本当の味は飛車角メンバーにご確認を。